

はじめに

1.計画策定にあたって

国のこども大綱では、その基本方針のひとつに、こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていくことが掲げられています。本市のこども計画策定にあたって、こうしたこども大綱の方針に鑑み、当事者が意見を表明しやすい環境づくりと、こども施策を推進する上で当事者がどのような考えを持っているかを把握するための取組を進めてきました。



こどもまんなか 応援サポーター

令和6年5月5日こどもの日に市の未来をつくるこどもたちがのびのびと育ち、持てる可能性を最大限に引き出せるよう、こどもや子育て中の人を応援するこどもまんなか社会の実現に向けて、「こどもまんなか応援サポーター」として、「こどもまんなか」に全力で取り組んでいくことを宣言しました。また、こうした取組を市内全域に広げていくため、取組に賛同いただいた市内企業とも連携したこどもまんなかアクションを進めています。



YouTube 取手市公式チャンネル
こどもまんなか応援サポーター宣言



取手市 ホームページ
「こどもまんなか応援サポーター」になりました！



とりで こども未来会議

「こどもまんなか社会」へ向けて若者の生の声を聴き、こども計画策定の参考とするため、市内7校の高校生と市若手職員でワークショップを実施しました。

(1)実施概要

- 日 付：令和6年7月30日(火)
- 会 場：取手市福祉交流センター
1階多目的ホール
- 参加者：高校生24名
(市内全7校)
取手市職員11名

(2)プログラム

- 市長あいさつ
- 「まちカタルカ」を使用したアイスブレイク
- テーマの前提となる背景についての説明
- ワーク①「自分の居場所」
- ワーク②「魅力的な駅前ってどんなところ？」
- まとめと発表
- 講評、修了証授与、写真撮影

(3)ワークショップ

ワークショップでは参加した高校生が自分事として、またこどもや若者にとって何が必要かといった観点で様々な意見が出されました。参加した生徒からは「自分たちで考えた目標が達成できれば本当に大好きな街になると思いました」「気持ちを伝えられて共感してもらえてとても嬉しかった」などの声がありました。



取手市 ホームページ
「とりでこども未来会議2024」を開催しました



親子で巡る！ 取手市公共施設 デジタルスタンプ ラリー

子育て世代の利用頻度の高い公共施設において、デジタルスタンプラリーを活用し、スタンプを取得する際に施設の利用頻度や満足度、施設に求める機能などを問うアンケートを実施しました。こども計画策定の参考とするとともに、今後の公共施設整備に際して子育て世代の満足度を高め、こどもや若者が利用したくなる魅力的な空間づくりと、積極的な公共施設利用につなげることを目的として実施しました。

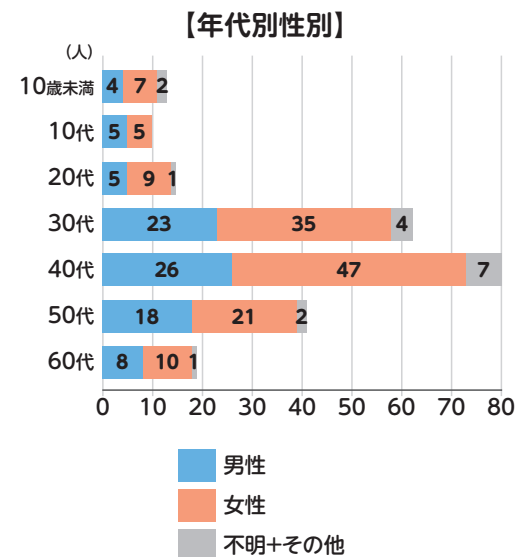
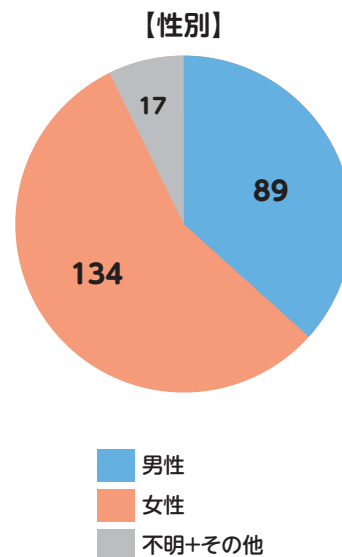


(1) 実施概要

- 実施期間：令和6年8月1日(木)から31日(土)まで(1カ月間)
- 対象施設：
 - ・取手ウェルネスプラザ
 - ・取手図書館
 - ・常陽建設ふじしろ図書館
 - ・市民会館
 - ・TAC取手グリーンスポーツセンター
 - ・FUYOUアリーナ藤代(藤代スポーツセンター)
 - ・とがしら公園
 - ・ゆめみ野公園
 - ・北浦川緑地
 - ・とりでアートギャラリー
- ターゲット：子育て世代

(2) 参加人数

- スタンプラリー参加人数：240人 うち抽選応募数(アンケート回答数)：89人



取手市 ホームページ
「親子で巡る!取手市公共施設デジタルスタンプラリー」を開催しました



全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会である「こどもまんなか社会」を、地域や企業、団体、そしてなにより当事者の皆さんと一緒に考え、実現するため、茨城県では初となる「こどもまんなかアクションリレーシンポジウムinとりで」を令和6年12月14日(土)取手ウェルネスプラザにて開催しました。三原じゅん子こども政策担当大臣からのビデオメッセージを紹介したのち、こども家庭庁からの基調講演と、ゲストとしてお招きした元サッカー日本代表の本並健治氏、丸山桂里奈氏によるトークセッション、市長も交えたパネルディスカッションが開かれました。



基調講演

「こどもまんなか社会」の実現に向けて

〈講師〉木庭 愛

(こども家庭庁成育局母子保健課長)

基調講演では、こども家庭庁より、少子化の現状と今後さらに少子化が加速していくことが見込まれる中で、いま取り組むべきことについての講演が行われ、若い世代の所得を増やしていくことや、子育てに関する社会全体の構造・意識を変えていくこと、そして全ての子育て世帯を切れ目なく支援していくことの重要性が語られました。



トークセッション

絶賛 育児中! ゲストのおふたりに聞く 子育てのリアル

〈ゲスト〉本並 健治(元サッカー日本代表)

丸山 桂里奈(元サッカー日本女子代表)

1児の父母である本並氏、丸山氏夫妻が登壇し、こどもが生まれた当時の大変だったことや子育てへの想い、お互いの得意・不得意なことを理解し、夫婦のチームワークで乗り越えてきたことの実体験など和やかにトークが繰り広げられました。ステージ前方のマットスペースではこどもたちが自由に遊び、こどもたちに手を振るなど、会場中に笑顔があふれるトークセッションとなりました。



パネルディスカッション

理想の「こどもまんなか社会」の実現に向けて

〈パネリスト〉本並 健治、丸山 桂里奈、木庭 愛、中村 修(取手市長)

〈MC〉小村 悦子

仕事と子育ての両立をテーマに、ご夫婦で活躍される本並氏、丸山氏やこども家庭庁の木庭氏、中村取手市長が語り合いました。

取手市における妊娠・出産・育児に対するサポートや、男女共同の視点からの「共育」に関する取組などをきっかけに、パネリストの実体験を交えたトークが繰り広げられました。



取手市 ホームページ

「こどもまんなかアクションリレーシンポジウム in とりで」を開催しました



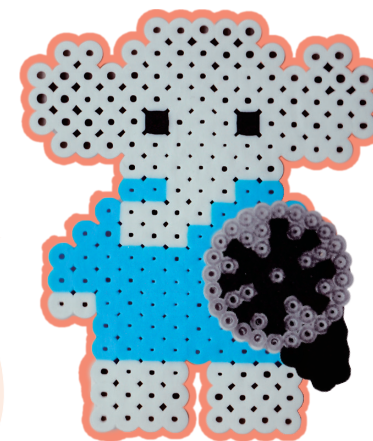
こども政策 プロモーション動画

これまで大人が中心となってきた社会を「こどもまんなか社会」へと変えていくためには、こどもや若者自身の声を聴き、その声を大切にし、こどもや若者にとって何が良いことか、ともに考え取組を進めていくことが大切です。

「こどもや若者の声が尊重される社会を目指す」そんな気持ちを込めて、東京藝大取手校地で学ぶアーティスト奥野智萌さんによるワークショップの企画・映像制作により、こども政策プロモーション動画を作成しました。今後も幅広い年代のこどもや若者が安心して自由に意見を伝えることができる場や機会をつくり、意見を持つための様々な支援を進めていきます。

「自分の話を聞いてほしい」そんな想いにフィーチャーしました

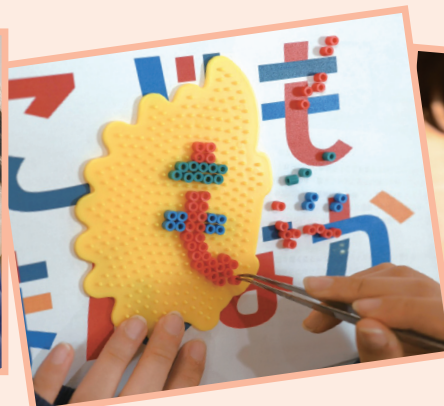
こども計画策定にあたり実施したアンケートの中で意見の多かった「もっと話をよく聞いてほしい」というこどもたちの想いにフィーチャーし、高校生とのワークショップを通じて「どういう時に話を聞いてもらえていないと感じるか」「どういう風にしてくれたら話を聞いてくれたと思えるか」「そもそも話を聞くとはどういうことか」について話し合い、こどもたちの想いをピックアップしアニメーションへとつむぎ出していきました。



主役はアイロンビーズで作成したキャラクター

アニメーションに登場するキャラクターは、高校生がアイロンビーズで作成したものです。

また、映像の背景に登場する場所は高校生が取手市内でお気に入りの場所です。こどもたちが今感じていること、大人へと伝えたいメッセージをキャラクターに乗せて発信します。



YouTube 取手市公式チャンネル
こども政策プロモーション動画
[「話を聞く」ってどういうことだろう?]



取手市 ホームページ
「こども政策プロモーション動画」が
完成しました

